

答弁中の平松町長



川口 満浩 議員

防災

想定外に備える防災対策は

起こりうる災害への備えは



田ノ上 真 議員

問

近年の災害は地球規模での温暖化による影響もあつてかゲリラ豪雨、台風等により各地で甚大な被害を出し、今まで経験した事のない大きな災害が発生、また予想される巨大な地震も懸念されるため、災害への備えが必要と考えます。

平成30年7月には須恵町で避難指示が出るほどの豪雨となり、大きな被害は出なかったものの、各地で起きた災害は対岸の火事ではありません。災害は、時、場所、人を選んではくれません。起きてはいけません。起きては、大惨事が起きた時にどう対応するのか、また起きる前にどのような準備、対策を取るのか、町長のご見解をお伺いします。

問

昨今の災害は想定外が常態化した観があります。昨年の大型災害も、想定外、過去に例を見ない等と言われました。仮に須恵町で、このレベルの災害発生、例えば24時間雨量が500mm超のとき、山、川、避難所等は大丈夫でしょうか。須恵町が日々努力を重ねる防災第一の取り組みは、即ち生命第一の姿勢と思ひ、一町民として、信頼を寄せるものです。

答 平松町長

防災・減災対策は、行政の負うべき最大の事業項目だと考えており、町の災害警戒本部の実践的な配備基準の見直しや役場非常用電源設備工事等を進めてきました。

さまざまな面から対策

(一括答弁)



須恵町防災ハザードマップ

各々が把握している情報を元に、各自主防災組織で意見を出し合いながら作成していただく方が良く考えています。ただ、細かくマニュアル化するのではなく、想定外の事態も踏まえ、臨機応変に対応することが重要です。

町では、住民の防災意識を高めるため、防災アプリの構築を考えています。防災情報の発信だけでなく、非常時の情報伝達も速やかに行えるよう整備していきます。

各自主防災組織は、立ち上がったばかりで、各行政区において真剣に取り組んでいた感じが感謝しています。自主防災組織には、避難するにあたり身体的なサポートが必要な方を把握し、災害発生初期に自助のサポートとして機能していただきたいと考えています。町主導の避難訓練については、災害を想定し、自主防災組織と本部がどう機能するのかを専門家も入れて検討した上で、令和2年度中に準備し、3年度には実施したいと考えています。

避難経路等は、役場が把握している危険箇所等の情報として



ドローンの活用も検討



リアルタイムで河川の状況を把握(災害対策本部設置時)